＜親子コミュニケーション応援編＞

教材番号　　**ｺ—4**

**２**

対象(時間)：概ね２，３歳～６歳児の親　(50分程度)

**いきなりどなっていませんか？**

**～**

【ねらい】親が子供を一方的にどなるマンガの場面を通して，まず子供の気持ちを受け止め，伝えていくことの大切さについて考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札，ワークシート，模造紙，付箋紙，フェルトペン(裏写りのしないもの)，アンケート用紙

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時　間 | アクティビティの展開例 | 留　　意　　点 | 備　考 |
| : | ○名札付け（来た順に） | ○全員が名札をつける。（ニックネーム可） | ※スケジュールを板書しておく。  ※机は４～５人  程度の小グループ |
| ：  (３分) | ○ファシリテーター（学習支援者）  　自己紹介，主旨・ルールなどを  説明。 | ○和やかな雰囲気づくりを心がける。  ○写真を撮る場合は，前もって許可を得る。  ○「親子コミ」三つの特長（親等の悩みに対応，子供の  気持ちを理解し自己を振り返る，具体的な子供との接し方についての情報提供)をファシリテーターが理解した上で，「子供の気持ちに共感した接し方，コミュニケーションの方法を，具体的に考えてみましょう」などと参加者に呼びかけ進める。 |
| ：  (５分) | **○アイスブレイク（雰囲気づくり）**  「テーマに関する自己紹介」  ①名前  ②子供の数・年齢  ③私のストレス解消法  ※時間に余裕があれば，  →ペアで自己紹介  →グループで他己紹介  という流れで進めることもできる。 | ○自由に意見を出し合うためのウォーミングアップと  する。  ○自己紹介の後で，ファシリテーターから「ストレス  解消方法も様々ですね。今日は多くの方が子育て中に  経験されていると思われるエピソードから考えていき  ましょう」などと教材の内容に入っていくと良い。 |
| ：  (10分) | ○タイトル，ねらいを読む。 **＜マンガを読んで考えましょう＞**  ○マンガ上段を読んで考える。  ○設問①に記入し，話し合う。  ○マンガ下段を読んで考える。  ○設問②に記入し，話し合う。  ※口頭で考えを交流し合う方法もある。  ※時間に余裕がある場合には，マンガのエピソードを親役，子役になってロールプレイすることで，好ましい関わりに気づく方法もある。 | ○三つの約束＋１（発言の平等，人の発言を肯定，秘密の保守とパス有）を知らせる。  ○イラスト，セリフ，猫の言葉などをファシリテーターの言葉で丁寧に伝える。  ○上段では，何度言っても片付けようとしない子供に，親が思わず怒鳴ってしまったことを押さえる。  ○下段は，４コマ目で親子共に笑顔であることを押さえ，考えるようにする。  ※具体的な言葉かけや対応についてだけでなく，子供の気持ちや親の気持ちについても考えられるよう促す。 ※ファシリテーターがいくつかの意見を伝えるなどして全体交流とする方法もある。  ※ロールプレイをした場合は，その時の親子の気持ちを想像することができるよう声掛けをする。 | ※ワークシートは回収しないこと，正解があるわけではないので，自由に書いたり，話したりして構わないことを伝える。 |
| ：  (22分) | **＜考えましょう，出し合いましょう＞**  ○設問③について記入し，話し合う。  ※食事，片付け，着替えなどの場面から思い出して記入する。    ○話し合ったことを紹介する。 | ○設問③について，ラベルワークで行うことが効果的。 ※予め模造紙に罫線や項目等を記入しておき，時間短縮の工夫をする方法もある。  　※時間がない場合には，項目を一つに絞って，話しても良い。  ※「付箋紙１枚につき，１つ書く」「簡単で良い」などを伝える。  ○困ったこと，うまくいかなかったことなど，同じような経験をしたことがないか振り返り，その時の子供の様子や気持ちを考える。  ※子供に伝わりやすい言葉かけや対応について考える。  ○子供の問題を「性格」でなく，「行動」に焦点を当てて捉えることの大切さに触れる。 | ※話し合うことで安心感が生まれることを分かってもらう。 |
| ：  (５分) | **＜ファシリテーターからの説明＞**  ○参考資料１のグラフ，参考資料２「親子のコミュニケーションサイクル」の紹介  ○参考資料３「親子のコミュニケーションに生かしてみては」の説明  ※ニコニコサイクルにつながるコツ，ポイントとして押さえても良い。 | ○グラフから子育てに悩みを持つ人が少なくないことを押さえる。  ○資料等を活用し，必要に応じて次の点を伝える。  ・一方的にどなるのではなく，短い説明で伝える。  ・子供と目線を合わせる，テレビを消すなど伝わり  やすい環境を整える。  ・行動の過程をほめ，随時言葉かけをし，少しでもできたらほめる。（人はうれしいときに脳の中に心地良さを感じる物質が出てやる気になる。）  ※イライラサイクルを否定するのではなく，日頃の子供への接し方を見つめ直す機会とし，イライラする関わりが少なくできると良いことを伝える。  ○Ｐ２のネコの言葉，参考資料３のネコの言葉のつながりを考え，「どなるよりもまず，子供の気持ちを受け止める方が，親も言いたいことが伝わりやすいこと」を押さえる。 | ※図(サイクル)を  見せながら説明  する。 |
| ：  (５分) | **＜学習を振り返りましょう＞**  ○ワークシートに記入する。  ○気付きの共有 | ○すぐにはうまくいかないかも知れないが，できることから試してみることの大切さを伝える。  ※参加者一人一人に感想を聞いても良い。  ※時間がない場合は，目を閉じ，自分自身で振り返る方法もある。  ※ファシリテーターからの感想があっても良い。 | ※ワークシートに無理に記入しなくても良いが，省略はしない。 |
| ： | ○終了・片付け  ○アンケート記入 | ○参加者全員で行う。  ○アンケート記入者から流れ解散 | ※現状復帰 |
| 〈メモ〉 | | | |